

教員養成課程における読書指導力の育成 —「ビブリオエッセー」の作成を通して—

徳 永 加 代

1. 本論の目的と背景

本論では、教員養成課程における読書指導力の育成について、読後の読書指導力の一つであり、「本の魅力を伝える力」に加え「本の世界について振り返り、自己発見する力」をも鍛える可能性を有する「ビブリオエッセー」を取り上げ、その効用について考察を行う。

平成 29 年版小学校学習指導要領国語では、「読書指導の改善・充実」として、各学年において〔知識及び技能〕に「読書」に関する指導事項が位置付けられた。そして〔思考力・判断力・表現力等〕の「C 読むこと」の領域では、学校図書館などを利用して様々な本などから情報を得て活用する言語活動例が示されている。¹⁾

本に親しみ自ら進んで読書をし、読書を通して人生を豊かにしようとする態度を養うために、発達に応じて系統的に指導することが求められている。その中には、探究的な学習において必要な本・新聞・雑誌などの情報を読む指導も含まれている。

文化審議会答申（2004）「これからの時代に求められる国語力について」（p.24）には、読書指導における教員の役割について、次のように示されている。²⁾（引用中の下線は論者が添えた。以下同様）

読書指導においては、子供と本との橋渡しをする教員の役割が極めて大切であり、教員の読書指導の質が問われることになる。読書指導における教員の姿勢は重要で、「本を読まない教員は求められていない」と言うこともできる。実際、子供たちの読書意欲を高めるために、本の楽しさについて常に語り掛けたり、読書通信等を活用して、教員が自ら読んだ本の紹介や子供たちに勧めたい本の一覧を発信したりするなど、様々な取組も行われている。

「教員が自ら読んだ本の紹介や子供たちに勧めたい本の一覧を発信したりするなど」とあるように、教員自身が読書に親しむことが重要である。そして、おもしろいと思う本や子どもたちに役立つであろうという本を紹介することにより、子どもたちが本を読むきっかけにつながる。さらに、子どもたちがどのような本を読んでいるのか、個々の読書の実態を知ることも必要である。

「教員の読書指導の質が問われる」と指摘されるように、読書指導は教員によって左右されるといっても過言ではない。したがって、教員養成課程段階において、様々な読書指導法に精通し、発達段階に応じた読書指導力を備えた人材を養成して

おくことが重要になる。

とは言え、教員養成課程において、学校図書館司書教諭講習を実施しているところはあるが、読書指導力養成の必修科目は開講されていないことが多い。学校図書館司書教諭講習は希望選択制のため、教員をめざす学生が全員履修するとはかぎらない。

荻野（2013）は、「子どもの読書活動と人材育成に関する調査研究」（平成25年6月）「教員調査ワーキンググループ報告書」において、「今後読書教育を推進する方策として、教員自身が調べ学習など本を活用した学習の経験を十分に積むとともに、教員になった後も研修などを通じて読書教育の方法を学び、研鑽を積んでいくことが推奨されるだろう。読書教育に取り組むためには、教員自身が多様な読書教育の方法や、学校図書館の利活用の方法を経験していること、及び実際に教員として働く中で読書教育の方法を学ぶ機会が保障されていることが重要になるものと考えられる。」（p.77）と述べている。³⁾

足立（2018）は、「私が日本の教員養成大学の中で不足していると思うのは、これは自戒も含んで述べたいのだが、子どもの本に対する知識や読み方の訓練である。」（p.49）と述べ、読書習慣を育てる小学校の先生の例の一つとして「いろいろなタイプの読書指導法を用いている」と指摘している。⁴⁾

上の指摘のように、読書指導のためには、「子どもの本に対する知識や読み方の訓練」「多様な読書教育の方法を経験して習得しておくこと」が重要になる。教員養成課程において、読書の意義を理解するとともに、子どもの発達や諸環境を踏まえた読書指導力を育成することが一層求められている。様々な方法を試し、その効用の確認作業を積み重ねる必要がある。そのひとつの方途が後に定義・提案する「ビブリオエッセー」である。

2. 先行研究における読書指導力

読書指導の目的は、児童生徒が豊かな人間性を培うとともに、自己教育力を養うことにある。このような目的を達成するために、教員養成課程においてどのような読書指導力の育成が必要なのであろうか。

足立（2009）は、読書指導を推進するために教員や学校職員に必要な資質・能力とは何かについて、外国のプロフェッショナル・スタンダード（IRA, NBPTS, ISBE）と「教員のICT活用指導力の基準」（文部科学省平成19年2月）を参考にして、読書指導に関するプロフェッショナル・スタンダードを開発した。7つの領域（授業準備、読書指導、読書評価、読書する子どもたちの指導、情報倫理、協力と協同作業、学校図書館の運営と読書環境）について、それぞれ2～4項目の指標を挙げ、21項目のチェックリストを示している。読書指導については「適切な読書指導の方法を知っている」「子どもの発達段階に応じた指導目標を立て、その指導目標に適切な指導の方法を選ぶことができる」の2項目を示している。⁵⁾

滝浪（2012）は、現職教員の読書指導に対する意識と実践状況の調査結果をもとに、読書科カリキュラムの開発の観点を8つ（読書指導の原理原則を学ばせること、

読書指導の内容を学ばせること、読書指導の具体的な指導方法を学ばせること、読書指導の演習を行わせること、教育実習において読書指導を行わせること、学校図書館の利用方法について学ばせること、教師としての読書のあり方を学ばせること、読書環境を整備し、企画運営できること）提案している。⁶⁾

これらの7つの領域、8つの観点は、教員養成課程における読書指導力育成の観点と言えるであろう。特に「読書指導の具体的な指導方法を学ばせること、読書指導の演習を行わせること」は非常に重要である。

さらに、府川（2009）は、読書指導について「読書指導では、読書の楽しみ方や読書技術の獲得などと同時に、本を選ぶ力（選書力）や、読後の本の整理のしかたなど、多岐にわたる指導が必要になる。そして、それらは学習者自身の読書生活を豊かにする方向に向けて組織される必要がある。」（p.112）と記している。⁷⁾

「読後の本の整理のしかた」に注目したい。読後の指導を考えることは、読書から感じ取ったものをどのように深化し、次の読書へつなげていくかということになる。つまり、次の読書への契機となることが重要である。

読書への興味づけや読書の幅を広げる読書活動は、読み聞かせ、ブックトークなど様々に取り組みされている。一方、読後の指導について読書記録や読書感想文などが考えられるが、学習者自身の読書生活を豊かにする方向に向けて組織されているのであろうか。

また、「学習者自身の読書生活を豊かにする方向に向けて組織される必要がある」との主張を受けて、本論においては、読書のきっかけを作るだけではなく、その世界の広がりや深さを感じさせ、読後の感想を交流したり、人に勧めたりするなど、学習者同士の相互交流を大切にす手段として、「ビブリオエッセー」を取り上げる。管見の限りにおいて「ビブリオエッセー」を取り上げた論文は見当たらない。本論においては、「ビブリオエッセー」の定義、有効性、さらに課題などについて考察していく。

3. 「ビブリオエッセー」とは

3.1 「ビブリオエッセー」の特徴

「ビブリオエッセー」とは、2019年4月から連載が始まった産経新聞夕刊1面の「ビブリオエッセー」の欄に端を発するものである。「ビブリオエッセー」という言葉は、この欄の担当者の造語である。自分の好きな本や読んでよかった本、かけがえない本への思いを書いたエッセーである。おすすめの一冊について、その本との出会い、エピソード、感想、おすすめの言葉などを誰かに向かって書く。「ビブリオエッセー」の欄には、「私の一冊」として、読者の投稿が掲載されている。11歳から90歳まで世代を超えた寄稿があり、様々な本を知る契機ともなっている。

【資料1】は、2019年12月13日付産経新聞夕刊に掲載された3年生の「ビブリオエッセー」である。⁸⁾ 授業において出会った『ねこのピート だいすきなくつ』について、教育実習でのエピソードを中心に「絵本で、前へ進んでいくことをしっかり伝えたかった。」というように、絵本から感じ取ったメッセージを発信している。このよ

【資料1】2019年12月13日付産経新聞夕刊に掲載された3年生の「ピリオエッセー」

【ねこのピート だいすきなしろいくつ】
エリック・リトウィン作
大友剛訳（ひさかたチャイルド）

へしろいくつ／かなりさい
ころ！
へおおいくつ／かなりさい
ころ！
軽快な歌が耳に残る。
司書教諭講習の最終日、大学の先生がこの絵本の読み聞かせをしてくださった。ねこのピートはどんなときもへじけな。最後の一節に「まあ、一ながあっても／うたをうたって／まえにすすむって／」。先生が伝えたかったことがよく分かった。
二週間後、小学校での教育実習が始まった。最初は不安でいっぱい。でも優しく明るい子どもたちが私の不安をかき消してくれた。もちろん実習中はたくさん悩み、たくさん苦しんだが、この子どもたちのために乗り越えるしかないと思ふに取り組んだ。担任の先生と子どもたちには感謝しかない。だからこそ、この

絵本で、前へ進んでいくことをしっかりと伝えたかった。
実習の最終日、次は私が子どもたちに読み聞かせをする番だ。ページをめくることに子どもたちと歌い、かけ合いをした。この絵本には楽譜がうしろについていて、みんなで歌える工夫してある。元気で明るい声を聞きながら、素敵な経験と思ふ出を胸に、私は改めて先生になることを心の中で誓った。
担任の先生はさっそく『ねこのピート』のシリーズを買ってくださった。みんながいつでも読んで歌えるよう学級文庫に置いたぞうだ。
この出会いが自分を大きく成長させてくれた。それが夢への一歩となっていく。この前向きな気持ちが伝われば。絵本はこんな言葉でしめくくられている。「そう／それがだいじ／きょうも／かなりさいころ！」

絵本がつなぐ思いのバトン

2019. 12. 13

うに、本から得た感動を人に伝えたいという思いが「ピリオエッセー」を書く原動力になることがわかる。

つまり、「ピリオエッセー」を書くことを通して、自身のエピソードをもとに読んだ本について振り返り、自己を発見したり、社会の中での生き方を考えたりすることにつながるのである。

3.2 読書指導における「ピリオエッセー」の有効性

読書指導として一般に知られている取組として、読書感想文の書き方を指導することがあげられる。読書感想文は、読書の推進活動の一環として捉えられている。例えば、1955年に始まり毎年実施されている「青少年読書感想文全国コンクール」(全国学校図書館協議会と毎日新聞社の主催)では、コンクールの趣旨について、「より深く読書し、読書の感動を文章に表現することをとおして、豊かな人間性や考える力を育む」と示されている。

増田(2009)は読書指導の問題点として、「読書感想力を育てること」を指摘し「読書後に、読書感想(文)を書かせることは、読書感想力を伸ばすうえで有効な方法である。注意すべきは、読書材から離れて自分自身の考えを書かせることである」(p.119)と述べている。⁹⁾

これまで、読後の指導として行われてきた読書感想文は、あらすじをまとめ、読んでどう思ったのかという感想を書くことが中心であった。「読書材から離れて自

分自身の考えを書かせる」指導は、あまり行われてこなかったのではないだろうか。

「ビブリオエッセー」は、思ったこと、考えたこと、感じたことを自由に書けるため「自分自身の考えを書かせること」が容易になるだろう。本を題材にしたエピソードを中心にした自己表現である。一冊の本を丹念に読み、自分の内面を見つめ考えたことを表現する。文章に表現することを通して、書く前には考えていなかった表象が新たに湧いてくる。書くことによって認識が深くなる。より深く読書し、豊かな人間性や考える力を育むことにつながる。「ビブリオエッセー」は、本について語ることを通して自己発見する営みといえよう。

また、本のことを知ってもらいたいという思いがこもった「ビブリオエッセー」は、おすすめの本の紹介文ともいえる。本の紹介文と言えば、書評を思い浮かべるであろう。書評は、主に新刊について書籍の内容を読者に紹介するために論評したもの、読者が書籍を選ぶ参考にする目的で書かれている。「Bibliographical Essay（書誌エッセー）」は、学問分野の研究の中核となる作品を特定して評価する重要なエッセーのことである。単一のトピックに関する多数の情報源を要約して比較するために書かれている。

「ビブリオエッセー」は、一冊の本と向き合い、じっくりと読み込んで、自分のエピソードを交えながら、その本から学び、考えたことや感じたことを文章によって表現する。他者の「ビブリオエッセー」を読むことにより、その本の魅力を知ることになり、新たな本の世界と出会うことができる。主体的に読書をする力につながるであろう。

これらのことを読後の読書生活を豊かにする読書指導力としてまとめると次の2点になる。

- ①本の魅力を伝える力
- ②本の世界について振り返り、自己発見する力

4. 「ビブリオエッセー」の作成を用いた読書指導力育成の実際

以下、論者が、学校図書館司書教諭資格科目「読書と豊かな人間性」において、こども教育学科の大学2・3年生（70名）を対象に行った「ビブリオエッセー」の作成を用いた読書指導力の育成について考察を行う。

4.1 「ビブリオエッセー」作成の概要

おすすめの本の紹介活動として「ビブリオバトル」を行った後、「ビブリオエッセー」（600字程度）を課題として設定した。

「ビブリオバトル」とは、おすすめの一冊を持ち寄り、その本の魅力を紹介し合う知的書評ゲームである。今回は、「ビブリオバトル」を6人グループになって行った。選んできた本の心に残ったエピソードや言葉などをそれぞれが3分間紹介した後、その発表に対するディスカッションを2分間行い、一番読みたくなった本を投票で決めた。多様な本の魅力を知ることにより、自分のおすすめの一冊の新たな良さを見つけ、「ビブリオエッセー」を書くヒントを見つけることがねらいである。

読み味わう力をつけることができる。

受講生（2・3年生）全員が「ビブリオエッセー」について知らなかったので、産経新聞夕刊に掲載された3年生の「ビブリオエッセー」【資料1】を紹介し、書く内容について理解させ、作成上の留意点として、次の3点を指導した。

- ア. 本の紹介（内容、あらすじやおすすめの場面、言葉など）を簡潔に書くこと。
- イ. 本にまつわるエピソードや本との出会いを書くこと。
- ウ. 感想（自分の思いや考え）を誰かに向かって書くこと。

学生の書いた「ビブリオエッセー」は、書評と感想文の要素が融合した個性豊かな作品であったので、論者が一括して新聞社に投稿した。すると、70名中8名の作品が掲載された。活字になった8名には「ビブリオエッセー」を読んだ感想とまわりからの反応についてまとめさせた。自分の書いた文章を読み直すことにより、おすすめの本について改めて振り返ることができる。

新聞に掲載された「ビブリオエッセー」については、本の表紙のコピーと一緒に校内に掲示した。また、大学のホームページにおいて振り返りの言葉とともに紹介した。新聞に掲載された「ビブリオエッセー」に紹介された本を読み、意見交流をする姿も見られ、読書への関心を高めることができた。

4.2 「ビブリオエッセー」の考察

【資料2】は、2020年3月14日付産経新聞夕刊に掲載された2年生の「ビブリオエッセー」である。¹⁰『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』について、アルバイトでの体験をもとに「レジ袋有料化」「プラごみ削減」など社会問題について、自分事としてとらえて書いている。大統領のスピーチで印象に残った言葉も引用している。

この絵本は友達から推薦されたそうである。絵本を選んだ理由について、「絵本を読んでSDGsに結びつくと考えた。大統領のスピーチは環境問題の本質をやさしい言葉で語っていたので、小学生に環境問題を教えるときに使えると思う」と述べている。指導者の立場から選んでおり、社会の中での生き方を考えさせる読書指導につながることを意識していることがわかる。

この「ビブリオエッセー」は、3月の月間賞（月間賞とは、毎月その月の「ビブリオエッセー」の中から選ばれた1作品）を受賞した。月間賞の受賞後、「ムヒカさんは笑顔の素敵なおじいちゃん、こういう人が上に立ってほしいですね。大統領時代は古い車で仕事に通い、質素な生活を実践されていたことにも感激しました。スピーチは文明や環境問題の本質をやさしい言葉で鋭く語っていて、私たちが生活を変えていく必要性を感じました。大変な時期だからこそ読み返したい本です。」と受賞のインタビューに答えている。大統領のスピーチの言葉とアルバイトの経験から、社会問題をしっかり考えていることが伝わってくる。何度も絵本を読み返して、読み味わい、社会の中での生き方を考える力が身についているといえよう。「私たちが生活を変えていく必要性を感じました。」のように、自己発見できていることがうかがえる。

【資料2】2020年3月14日付産経新聞夕刊に掲載された2年生の「ピブリオエッセー」

『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』

くさばよしみ編 中川学絵（汐文社）

2020. 3. 14

この絵本を読んでバイト先
のことがよみがえった。
私はコンビニでアルバイト
をしている。空港が近いため
海外からのお客さまも多い。
その日もマニュアル通りの丁寧な接客をしていると、美男美女の外国人カップルがレジ前にやって来た。
かなり商品を買っておられたので一番大きなレジ袋に入れようとすると、男性が「フー、バッグ！」と言い、ポケットからエコバッグを取り出して商品を入れ始めた。
「エコバッグは当たり前やん」と思つ方もいるかもしれませんが、袋が有料だったりポイントが付いたりするスーパーならエコバッグを持つ人も少なくないだろう。しかし、うちのコンビニはそのような対策がまだないため、1本のペットボトルに袋を欲しがるお客さまがたくさんいる。

私たちにできることは

この絵本に登場するのは南米ウルグアイのホセ・ムヒカ元大統領。2012年、地球の環境と未来を議論した国連会議で行き過ぎた消費、浪費社会を批判し、本当の幸せを問いかけ、こう語った。
「貧乏とは少ししか持っていないことではなく、無限に欲があり、いくらあっても満足しないことです」
絵本にはスピーチが全文掲載されているが、この言葉を聞き、日本は貧乏な国だなど思った。エコバッグを持つといいだけなのにわざわざ袋をもらう。プラごみが問題視されているのに、まだ他人事だと思っている人が多いのではないだろうか。
この夏からほとんどのお店でレジ袋が有料化されるが、これからはバイト先でも積極的に声をかけてプラごみ削減に貢献したいと思う。

産経新聞2020年4月25日付夕刊に掲載された月間賞の選者は、次のように述べている。¹¹⁾

江南亜美子（書評家・京都芸術大学専任講師）「ご自分の体験がエッセーの半分を占めて長いですが、乖離している印象はなく、説得力を増している。展開がスムーズです。引用が『日本は貧乏な国だと思った』という実感につながり、ここは自分の意見だということがわかります。エコとかサステナブルといった時事問題に落とし込むエッセーは少ないので、その点もいいですね。」

福嶋聡（ジュンク堂書店難波店店主）「環境問題になるとつい説教じみた内容になりがちなのですが『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』は大事なことが、背伸びすることなく素直に書かれていてよかったですと思います。引用した部分がうまい。「貧乏とは…」という一カ所だけなのですが、それだけでかなりのことがわかります。」

2人の選者は「日本は貧乏な国だと思った」という意見につながる「貧乏とは少ししか持っていないことではなく、無限に欲があり、いくらあっても満足しないことです」を引用したことを高く評価している。一番印象に残った言葉を引用したことが、自分の意見を支えたことを知り、情報を選択することの大切さにも気づいたようである。

特に、江南が「ここは自分の意見だということがわかります」と指摘していると

ころに注目したい。つまり、「本の世界について振り返り、自己発見する力」を発揮できているということであり、ここが「ビブリオエッセー」の特色である。

このように、「ビブリオエッセー」は、読後に本と向き合い自分と対話しながら感じたことや考えたことを伝える有効な手段である。今までの自分の世界を広げ、新しい自分に気づくという積極的な読書を行うことになる。

5. 「ビブリオエッセー」を用いた読書指導力の育成についての成果

受講生70名のうち8名の「ビブリオエッセー」が新聞に掲載された。新聞に掲載された学生の振り返りは【表】のとおりである。この振り返りをもとに「ビブリオエッセー」の成果と読書指導力(①本の魅力を伝える力②本の世界について振り返り、自己発見する力)との関係について考察する。

(1) 「本の魅力を伝える」について

誰かに向けておすすめの本を紹介するように自由に書かれた「ビブリオエッセー」を読むことにより、様々な本に出会うことができ、読書の幅が広がり、主体的な読書につながる事が期待される。

㉔の「エッセーを読んだ友人は、早速本を読んでくれました」、㉕の「ビブリオエッセーを読んで、もう一度読んでみようかなと言っていました」、㉖の「まだ面白い本に出会うことのできていない人の読書のきっかけに繋がる」のように、読書への興味づけや読書意欲の喚起を実感したようである。

㉗が「『じっくり、しっかり読みたいなって思える作品だった』という感想を聞き、うれしくなりました」、㉘が「この本はいい本だったと自己満足して終わるのではなく、ビブリオエッセーを自分と他人との媒介とし、その作品の良さを共有できる」と書いているように、読書を個人の世界だけで閉じるのではなく、自分の読みを他者に伝え共有することによって、ものの見方や考え方が深まっていくことを意識している。感想や意見、読み方などを伝え合った後は、ぜひその時に感じたことや考えたことを振り返りの言葉として残しておきたい。

(2) 「本の世界について振り返り、自己発見する」について

㉙の「姉からすすめられて読んだ魅力的な江戸川乱歩の小説が私を読書の道へ導いてくれました」からは、この本が読書に興味関心を持つきっかけになったことを確認していることがわかる。

㉚の「本を読む相手の頭の中を覗くような行為が好きなのだ」のように、本の世界を読み味うためには、豊かに想像力をはたらかせて読む力を身につけさせる必要がある。㉛の「本を読むことで自分の中になかった考えが増えるのは面白い。読んだ時によって感じることは違うことや読んだ人によってとらえ方が違うことを感じる事ができました」のように、読み味わうことや自分を振り返ることのおもしろさに気づいていることがうかがえる。読書により間接経験を増やし、自分の経験を深め、考えの幅を広げることになることを自覚させるようにしたい。

㉜の「まず自分自身が変わらなくてはならないと感じました」㉝の「本が人に影響を与える」㉞の「私は教師をめざしていますが、みんなが様々な立場からい

【表】「ビブリオエッセー」についての振り返りの言葉

書誌情報	振り返りの言葉
<p>【A】『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』 くさばよし編 中川学絵 汐文社 2014年</p>	<p>内容を改めて読んで、まず自分自身が変わらなくてはならないと感じました。今私たちにできることを進めていくことが環境、国を守るために必要なのではないかと思います。「じっくり、しっかり読みたいなって思える作品だった」という感想を聞きうれしくなりました。私の文章に共感してくれた人もいて、文は人をつなげるものなのだと深く実感しました。</p>
<p>【B】『ムーミン谷の彗星』 トーベ・ヤンソン 作・絵下村隆一訳 講談社 2011年</p>	<p>ビブリオエッセーを書くことで、改めて本が教えてくれることの多さや大切さを知りました。それを他の人にどのように伝えるのかを考え、また、自分にとってもどんな本であるのかを考えるきっかけになりました。家族には「兄弟や友達と比べて、そんな感情を持っていたんだね」と言われ、改めて自分を知ってもらえた気がします。私の大切で大好きな『ムーミン谷の彗星』を多くの人に知ってもらうことができとても嬉しいです。</p>
<p>【C】『夢をかなえるゾウ』 水野敬也 飛鳥新社 2007年</p>	<p>本を読むことで自分の中になかった考えが増えるのは面白い。ビブリオエッセーを通して本が人に影響を与えることを改めて感じました。読んだ時によって感じることは違うことや読んだ人によって伝え方が違うことを感じることができました。家族は「毎日感謝するというポジティブなことを考えることは意外と難しい。本を読んで感じる事が勉強になる」と話していました。</p>
<p>【D】『着たい服がある』 常喜寝太郎 講談社 2019年</p>	<p>多くの人にこの本を読んでほしいという熱い気持ちでエッセーを書きました。エッセーを読んだ友人は、早速本を読んでくれました。「じっくり、しっかり読みたいなって思える作品だった」と感想をくれました。この本はいい本だったと自己満足して終わるのではなく、ビブリオエッセーを自分と他人との媒介とし、その作品の良さを共有できるというのは、とても素敵だと思った瞬間でした。</p>
<p>【E】『生きているだけで愛。』 本谷有希子 新潮文庫 2009年</p>	<p>読書が大好きという訳ではなく、本を読む相手の頭の中を覗くような行為が好きなのだ最近になって気づきました。ビブリオエッセーは、好きな本について書かれた文章なので、私にとってはとても読みやすく面白いと思います。</p>
<p>【F】『十字架』 重松清 講談社文庫 2009年</p>	<p>今回のビブリオエッセーを通して、自分の伝えたいことを文章にすることの難しさを実感しました。以前に一度本を読みかけていた両親が、ビブリオエッセーを読んで、もう一度読んでみようかなと言っていました。私は教師をめざしていますが、みんなが様々な立場からいじめに向き合い、何ができるか、考えなければいけないと強く感じました。ビブリオエッセーを通して本を手に取り、いじめのニュースなどを見た時に一度深く考えるきっかけになればと思います。</p>
<p>【G】『窓から逃げた100歳老人』 ヨナス・ヨナソン著 柳瀬尚紀訳 西村書店 2014年</p>	<p>本と私の出会いを書き、それを本の紹介に繋げることは意外に難しく苦戦しました。本とのエピソードを伝えるほうに重きを置いたため、本の良さを伝えられたか心配です。まだ面白い本に出合うことのできていない人の読書のきっかけに繋がることを願っています。</p>
<p>【H】『心理試験』 江戸川乱歩 春陽堂書店 江戸川乱歩文庫 2015年</p>	<p>姉からすすめられて読んだ魅力的な江戸川乱歩の小説が私を読書の道へ導いてくれました。身内にビブリオエッセーを読んでもらうのは少しドキドキしましたが、このビブリオエッセーを自分の知らない人も読んでくださっていると、とても胸が熱くなります。</p>

じめに向き合い、何ができるか、考えなければいけないと強く感じました」のように、自分のものの見方や考え方を深めていることがわかる。本の主題や内容を受動的に受け止めるのではなく、自分の問題としてとらえ、自分の考え方や行動の仕方を積極的に変えていこうというのである。

㊦の「改めて本が教えてくれることの多さや大切さを知りました。それを他の人にどのように伝えるのかを考え、また、自分にとってもどんな本であるのかを考えるきっかけになりました。」のように、自分自身を見つめる力がついているのうかがえる。さらに、そのことを他者にも伝えることにより、自分の読みや考えを確かめることができる。

これらの考察の結果、その人が感じた本の魅力を伝える「ビブリオエッセー」を作成し、伝え合うことを通して、次の2つの読書指導力を身につけたことが明らかになった。

- ①本の魅力を伝える力
- ②本の世界について振り返り、自己発見する力

6. 「ビブリオエッセー」の課題と可能性

「ビブリオエッセー」は始まったばかりの取組であるが、次のような課題と可能性を秘めている。

6.1 コロナ禍での取組を生かすツール

全国学校図書館協議会が2020年9月に実施した「新型コロナウイルス感染症に関連した学校休業、学校再開後の授業等にかかわる学校図書館及び児童生徒の読書実態アンケート」の結果によると、休業中の課題に読書を課した小学校52.4%、中学校32.5%、高等学校24.1%であった。そして、休業中の児童生徒に向けて、おすすめの本のリストや情報を提供した小学校13.4%、中学校23%、高等学校20.5%であった。本に関する情報提供が行われていた学校もあることがわかる。¹²⁾

このような取組を生かすために、日ごろから読書指導計画に沿った学習に関連する本のリストを作成しておく必要があるだろう。教科書教材との関連も考慮し、公共図書館が発行している「学年別おすすめの本リスト」や新刊本の案内などの展示、出版流通情報誌、新聞の書評欄なども参考に子どもの本を読んで、書誌情報、感想、おすすめポイントなどを書き留めておくことを継続させたい。本の魅力を伝える「ビブリオエッセー」は、そうしたものを発信するツールとなるであろう。

6.2 ICT 機器を活用した読書活動—オンラインの活動—

今後の課題として、「ICT 機器を活用した読書活動を指導する力」を育成しておく必要がある。

「ICT 機器を活用した読書活動」というと、調べ学習をイメージすることが多いであろう。しかし、「読後の本の整理のしかた」についても、例えば、投稿文、電子メール、フォーラムへの参加回答など、オンライン上の多様な形式を用いて、タ

イムリーに本の世界について振り返り、本の魅力を伝え合い読後の読書生活を豊かにすることもできよう。

さらに、様々な読書活動を通して、学生の読書指導力を高める方法について探究していきたい。

付記

本稿は、第141回全国大学国語教育学会における紙面発表の原稿を加筆修正したものである。

注

- 1) 文部科学省 (2017)「小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説国語」
- 2) 文化審議会答申 (2004)「これからの時代に求められる国語力について」https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/bunka/toushin/04020301/015.pdf (2021年9月5日確認)
- 3) 荻野亮吾 (2013)「第Ⅱ部学校教員長さ第1章教員による読書状況の実施状況」『子どもの読書活動と人材育成に関する調査研究 教員調査ワーキンググループ報告書』国立青少年教育振興機構, p.70
- 4) 足立幸子 (2018)「子どもの読書習慣を育てる親や先生」『児童心理』No.1055, 金子書房, pp.45-51
- 5) 足立幸子 (2009)「読書指導力スタンダードに基づく教員研修プログラムの評価」『新潟大学教育学部研究紀要人文・社会科学編』2(1), pp.1-14
- 6) 滝浪常雄 (2012)「教員養成課程における読書科カリキュラム開発に関する研究」『安田女子大学紀要』40, pp.155-163
- 7) 府川源一郎 (2009)「読書指導〈2〉」『国語教育指導用語辞典 第4版』教育出版, p.121
- 8)「絵本がつなぐ思いのバトン」, 産経新聞, 2019年12月13日, 夕刊, 4版, P.1
- 9) 増田信一 (2009)「読書指導〈1〉」『国語教育指導用語辞典第4版』教育出版, p.119
- 10)「私たちにできることは」, 産経新聞, 2020年3月14日, 夕刊, 4版, p.1
- 11)「ビブリオエッセー選考会」, 産経新聞, 2020年4月25日, 夕刊, 4版, p.3
- 12) 全国学校図書館協議会 (2021)「新型コロナウイルス感染症に関連した学校休業、学校再開後の授業等にかかわる学校図書館及び児童生徒の読書実態アンケート」『学校図書館』No.845, pp.44-46

参考文献

- 秋田喜代美 (2018)「これからの読書を考える—スマホ時代の読書と子どもの発達」『児童心理』No.1055, 金子書房, pp.1-10
- 公益社団法人全国学校図書館協議会「探究 学校図書館学」編集委員会編著 (2020)『探究 学校図書館学 第4巻 読書と豊かな人間性』, 公益社団法人全国学校図書館協議会

- 滝浪常雄（2021）「小学校教員の読書指導力養成に関する研究－熟達した読書指導者から得られた知見－」『名古屋学院大学論集 言語・文化編』32(2), pp.109-116
- 中島正明（2010）「学校教師の読書実態と読書意識に関する研究」『安田女子大学紀要』38, pp.121-137
- 野口久美子（2013）「教員の読書指導への意識や実態を踏まえた学校図書館の支援のあり方：高等学校を対象とした調査をもとに」『日本図書館情報学会誌』59(2), pp.61-78
- 米谷優子（2011）「日本における読書教育と読書推進策－情報リテラシー教育との関連から－」『園田学園女子大学論文集』45, pp.19-39
- 文部科学省（2018）第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」（本文）
[file:///C:/Users/tokun/Downloads/data%20\(9\).pdf](file:///C:/Users/tokun/Downloads/data%20(9).pdf)
(2021年9月5日確認)
- Lipscomb University Beaman Library
<https://libguides.lipscomb.edu/c.php?g=109200&p=7461376>
(2021年11月8日確認)

（とくなが かよ・帝塚山大学）